

世界のブルーベリー輸出の未来

Blueberries Consulting Magazine 2025年6月30日

2030年及び2050年の主要国の予測

ブルーベリー輸出のリーダーシップは、2030年までに、気候変動、耐性品種の開発、及び新興市場の拡大の影響を受けるだろう。2050年までには、気候変動、農業の自動化、持続可能性、及び水資源へのアクセスが、この見通しに大きく影響するだろう。

ブルーベリーは、その栄養と抗酸化特性、さらに種子と皮を取らなくてよい消費のしやすさから、世界で最も人気の高い果実の1つとなった。この数十年で、主に健康的な食事への関心の高まりに牽引され、ブルーベリーの需要は指数関数的に高まった。このブームは市場を一変させ、いくつかの国がブルーベリーの生産と輸出のリーダーとして位置付けられた。しかし、気候変動、技術革新、新興市場の需要、生産システムの持続可能性、最も効果的な管理等の要因が、どの国が将来この市場を主導するかを決定するだろう。

総生産量は2030年までに300万トンを超えると予測されており、2050年に達するであろう驚異的な数字について敢えて予測する人は誰もいないが、傾向に照らせば明らかに500万トンを超えると見られる。これは、近年の現実と比較して、大幅かつ急速な成長となる。この生産量の急増は、新しい無土壌栽培システムと精密農業の採用、新しい改良品種の出現、さらに従来からの産地と日々追加されている新興産地の両方における栽培面積の拡大によるものである。また、栽培管理の技術革新、遺伝的改良、栽培に関して得られた新しい知識の応用により、果実の品質は絶えず向上している。

未来予測

世界市場へのブルーベリー輸出の将来のリーダーについては、現在の傾向は明確であり、特定の国々のこの作物を取り巻く土壌条件や気候条件、新しい品種、技術者や専門家が持つ技術や農業知識の効果的な使用、メキシコやモロッコなどに見られるように場合によっては重要な市場に対する地理的な立地に依存する。

ブルーベリー輸出の現在の世界的リーダー

ペルーは、(北半球の)オフシーズン中の出荷能力、望ましい気候、技術と適合品種への投資により、現在、疑いの余地のない市場のリーダーである。

チリは、過去10年間の多くの新しい品種と改良された技術ツールの提供と時を同じくして、ブルーベリー輸出の世界で従来の主導的な地位から追い落された。しかし、南半球におけるブルーベリー輸出の先駆者であり、現在は競争とコストの課題に直面しているものの、市場では依然として最高の地位の1つを占めている。

米国は何十年にもわたって主要なプレーヤーであるが、国内消費により重点を置いており、その輸出はカナダ等の近隣市場に集中している。

メキシコは近年、その品種の多様性と、主に米国市場からわずか数時間という恵まれた立地のおかげで、上位に躍り出ている。

スペインと、そして特にモロッコの2カ国は、ヨーロッパへの戦略的供給国であり、これは地理的に近く、また需要の高い時期に出荷できるためである。

最後に、中国は、現在のところ国内消費向けの大生産国であるが、輸出に向けた農業インフラが急速に整備されている。

これらの国々は、土地の利用可能性、農業知識と技術への投資、国際市場へのアクセス等の要因の恩恵により市場で主導的な立場にある。

2030年の主なブルーベリー輸出国

ブルーベリー輸出のリーダーシップは2030年までに、気候変動、耐性品種の開発及び新興市場の拡大の影響を受けると見られる。これらの傾向に基づくと、次の国々が主な輸出国になる可能性がある。

ペルーは、(北半球と)季節が逆転した出荷の競争上の優位性と乾燥して安定した気候により、引き続き市場をリードすると見られる。ペルーの企業は、灌漑技術、多収性品種、及び国際認証の取得に投資しており、これによってリーダーシップを維持することが可能になるだろう。さらに、米国、ヨーロッパ等の主要市場に近いことで、その地位が強化されている。

中国は、生産だけでなく、輸出でも主要なプレーヤーになると見られる。現在、世界最大のブルーベリー消費国であるが、生産能力が急速に拡大している。物流インフラの改善と先進技術の採用により、中国は国際市場での競争が可能になるだろう。

モロッコは、地理的な近接性と低い生産コストにより、ヨーロッパへの戦略的輸出国として成長するだろう。さらに、ヨーロッパ市場にとって重要な時期に出荷する能力と有利な貿易協定により、同国は主要なプレーヤーとしての地位を確立すると見られる。

南アフリカは、その多様な気候と、ヨーロッパ市場及びアジア市場への供給能力を活用して、重要な役割を果たすだろう。水ストレスに強い品種と高度な港湾インフラへの投資により、競争力が強化される。

衰退するどころか消費が増加する可能性のある市場(北米)に絶対的に近接しているメキシコは、この予測に含める必要があるだろう。

2050年：変貌を遂げた世界のブルーベリーの巨人達

2050年までには、気候変動、農業の自動化、持続可能性及び水資源へのアクセスによって、世界の状況は大きな影響を受けるだろう。以下の予測では、世界的なリーダーになり得る国々に焦点を当てる。

カナダは、特に気候変動によって生産条件がブルーベリーにより適したものとなるとの文脈において、世界のリーダーとして浮上する可能性がある。北部地域での耕作地の拡大と高度な温室栽培技術の組合せにより、カナダは世界的に競争することができるようになるだろう。

中国は、2050年までに最大のブルーベリー輸出国としての地位を固める可能性がある。その技術力は、政府の支援政策と高度に発達したインフラと相まって、生産と輸出の両方で主導することを可能にするだろう。

ブラジルは、広大な国土と多様な気候を有し、ブルーベリーの主要な生産国になる可能性がある。先進的な農業技術の採用と非伝統的な地域での生産拡大により、中南米、ヨーロッパ、アジアの市場への供給が可能となるだろう。

サハラ以南のアフリカ諸国は、耕作地が豊富で、農業の技術革新を牽引する若年層がおり、ブルーベリー生産の新たなハブとなる可能性がある。ケニア、ザンビア等の国は、インフラや市場アクセスの課題を克服できれば、主要な輸出国として浮上する可能性がある。

この記事は、Blue Magazine の次号に掲載されるレポートと詳細な分析からの抜粋である。

出典：Blueberries Consulting